

文教厚生常任委員会資料
2024年（令和6年）9月25日
福祉局あかし保健所保健総務課

## 報告第17号及び第18号関連資料

### 地方独立行政法人明石市立市民病院の経営状況（令和5年度決算） 並びに業務実績に関する評価結果の報告について

市が出資した法人である地方独立行政法人明石市立市民病院（以下「法人」という。）について、地方自治法第243条の3第2項の規定に基づき、令和5年度の経営状況を議会に報告しようとするものです。

また、業務実績について、地方独立行政法人明石市立市民病院評価委員会（以下「評価委員会」という。）の意見を踏まえて評価した結果を、地方独立行政法人法第28条第5項の規定に基づき報告します。

#### 1 経営状況の報告〔令和5（2023）年度決算〕

##### ① 総括

2023年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、コロナ診療と一般診療の両立を図りながら、効率的な病床運営による診療実績の向上を目指し、取り組みを行いました。しかし、診療報酬上の特例措置の減算による診療単価の低下や、外来患者数の減少などにより、医業収益が低下したことや、費用面においては、物価高騰による経費の増大等により、9年ぶりに赤字に転じ、76百万円の当期純損失が生じました。

##### ② 収支決算（単位：百万円）

項目		2019年度 決算額※	2022年度 決算額	2023年度 決算額	差引
収益	医業収益	7,600	8,200	7,695	▲505
	運営費負担金収益	924	823	814	▲9
	補助金等収益	20	1,253	278	▲975
	計（上記以外を含む）	8,676	10,462	8,955	▲1,507
費用	給与費	4,738	4,982	4,984	2
	材料費	1,822	1,679	1,748	70
	経費	1,204	1,322	1,317	▲5
	計（上記以外を含む）	8,544	8,922	9,031	110
当期純利益		132	1,540	▲76	▲1,617
資金残高		1,736	5,005	5,236	230

※参考値として新型コロナウイルス感染症拡大前（2019年度）の数値を掲載

③ 主な数値目標と実績

項 目		2019年度 実績値	2022年度 実績値	2023年度 目標値	2023年度 実績値	前年度との差 目標値との差
職員	常勤医師数	58人	63人	65人	62人	▲1人 ▲3人
救急	救急車による搬入患者数	3,164人	3,284人	3,400人	3,595人	+311人 +195人
	救急車お断り率	19.8%	31.9%	22.0%	23.2%	+8.7% ▲1.2%
地域連携	紹介率	78.7%	83.1%	80.0%	88.5%	+5.4ポイント +8.5ポイント
	逆紹介率	83.6%	82.4%	85.0%	86.9%	+4.5ポイント +1.9ポイント
入院	一日平均入院患者数	259.2人	238.8人	270.2人	257.9人	+19.1人 ▲12.3人
	新入院患者数	7,377人	6,075人	7,400人	6,265人	+190人 ▲1,135人
	入院診療単価（急性期）	62,075円	82,212円	66,000円	68,457円	▲13,755円 +2,457円
	入院診療単価 （地域包括ケア病棟）	33,965円	42,921円	40,700円	41,729円	▲1,192円 +1,029円
	入院診療単価 （回復期リハビリテーション病棟）	30,364円	33,786円	33,000円	34,223円	+437円 +1,223円
	急性期病棟稼働率	77.9%	69.9%	81.3%	75.9%	+6.0ポイント ▲5.4ポイント
	地域包括ケア病棟稼働率	80.6%	77.2%	83.0%	84.8%	+7.6ポイント +1.8ポイント
	回復期リハビリテーション病棟稼働率	83.7%	91.6%	93.3%	93.7%	+2.1ポイント +0.4ポイント
外来	一日平均外来患者数	551.5人	483.9人	522.0人	471.1人	▲12.8人 ▲50.9人
	外来診療単価	17,007円	16,404円	17,000円	16,853円	+449円 ▲147円
財務諸表	材料費対医業収益比率	24.0%	20.5%	21.6%	22.7%	▲2.2ポイント ▲1.1ポイント
	経費対医業収益比率	15.8%	16.1%	15.6%	17.1%	▲1.0ポイント ▲1.5ポイント
	人件費対医業収益比率	62.3%	60.8%	63.0%	64.8%	▲4.0ポイント ▲1.8ポイント
	経常収支比率	101.7%	117.3%	100.1%	99.2%	▲18.1ポイント ▲0.9ポイント
	医業収支比率	95.3%	99.6%	96.9%	93.1%	▲6.5ポイント ▲3.8ポイント
	修正医業収支比率	92.5%	95.8%	93.0%	89.0%	▲6.8ポイント ▲4.0ポイント
	医業収益	7,600百万円	8,200百万円	8,070百万円	7,695百万円	▲505百万円 ▲375百万円
	入院収益	5,183百万円	6,195百万円	5,799百万円	5,690百万円	▲505百万円 ▲109百万円
	外来収益	2,270百万円	1,929百万円	2,152百万円	1,929百万円	±0円 ▲223百万円

## 2 2023 事業年度の業務実績に関する評価について

### (1) 評価の実施について

市は、地方独立行政法人法第 28 条の規定に基づき策定した「地方独立行政法人明石市立市民病院の業務の実績に関する評価実施要領」により、法人の 2023 事業年度に係る業務実績について総合的な評価を実施しました。

評価にあたっては、地方独立行政法人法及び地方独立行政法人明石市立市民病院評価委員会条例に基づき、評価委員会に意見を求めました。

### (2) 2023 事業年度に係る業務実績の評価結果について

評価結果 「中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおりに進んだ」
----------------------------------

#### <総評>

第 4 期中期目標・中期計画の初年度となった 2023 事業年度は、新型コロナウイルス感染症の 5 類移行を踏まえ、年度当初より、感染症患者専用病棟において一般患者の受け入れを再開し、コロナ診療と一般診療の両立を図りながら、柔軟な診療対応により総合的医療の推進に取り組んだ。

中でも、救急医療においては、受け入れ体制の強化を図り、年々増加する救急要請に対応し、救急受け入れ件数は過去最高の実績となり、コロナ禍において悪化していた救急お断り率についても改善が図られた。

また、地域の医療需要を鑑み、回復期医療においては、増加する高齢者の早期在宅復帰に向けた多様なリハビリテーションの実施や、難病患者等のレスパイト入院の受け入れを行うなど、在宅療養後方支援病院として地域における切れ目のない医療の提供に努めたことは評価できる。

一方で、病院の核となる一般急性期医療については、診療体制の整備に努めているものの、病床稼働率が目標値を下回っており、今後も、コロナ前の受療動向と比較しながら対策を講じ、急性期医療を軸とした診療内容の充実を図っていく必要がある。

財務面においては、コロナ関連の特例的な収入を見込まず収支計画を立てたうえで、診療実績の改善による収入の確保、およびデジタル化の推進や業務効率化による経費削減と労働生産性の向上に努めたが、コロナ禍を経て、医業収益は目標値に届かず、物価高騰も相まって経常収支は 9 年ぶりに赤字となった。

ポストコロナにおいては、急性期医療に対する回復は、いずれの病院においても未だ十分でない状況にあることや、費用面においても、予想を上回る物価や光熱費の高騰等により、経営面で影響が生じた結果となっていることから、多くの項目において、数値目標を下回る結果となったが、これらの社会情勢についても考慮した上で、総合的に判断し、2023 事業年度の業務実績については、「中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおりに進んでいる」と評価するものである。

(3) 参考

<評価委員会 委員名簿>

役 職	氏 名	職 名
委 員 長	明石 純	前 関西学院大学経営戦略研究科教授
副委員長	伊賀 文計	明石市医師会顧問
委 員	中田 精三	市立伊丹病院病院事業管理者
	工藤 美子	兵庫県立大学看護学部教授
	大谷 泰史	公認会計士